

# 講習会だより

NO-25 Extra number(8) 2014/05/14

昨年NO-23でお知らせいたしましたが、一部内容を変えてお送りいたしますのでご利用ください。

## 藤の芽の推移と剪定

剪定時期と場所が正しくないと花が咲かないか花付きが悪くなります。



### ①.5月上旬の状態

花も終盤になり、花柄の後に小さな絹サヤ状の実が付きます。

そしてこのまま放置すると、やがて翌年花になるための栄養分を吸収してしまいますので、花穂の基部にある芽を残し、花の付いている部分だけを切り取ってやります。



### ②.8月下旬の状態

この頃になると葉やツルはさかんに光合成をしていますので、日照・通風・害虫などを考慮しながら、内側を向いて交差している葉を透かしたり、ツルを基部から50cmほど残して切り、涼やかにしてやります。

\*写真は花穂の基部の芽を残して花柄部分だけを切り取った痕です。



### ③.冬期2月頃までの状態

6月下旬～8月上旬に花芽分化した芽も、まもなく一気に芽吹きを迎えます、そしてこの時期は樹形全体が見られますので、芽の付いた短枝はそのままにして、交差する枝や内向枝を枝元で剪定し、その他伸びすぎた枝などは基部から3～5芽残して剪定します。